

令和3年度事業報告

事業概要

「青少年に活動、研修、交流の場を提供することにより、豊かな感性と創造性を育み、心身ともに健全な青少年の育成を図ること」を目的としており、この目的を達成するため、山梨県から指定管理者として指定を受けている4施設の管理運営を行うとともに、これらの施設等において、「青少年の自然体験、生活体験、奉仕体験などの体験活動を推進する事業」、「子どもや親子の自由な遊びやふれあいを促進する事業」、「青少年の文化、教養、スポーツ活動を促進する事業」等を展開した。

また、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館、臨時休所及び事業実施の制限があったものの、感染症対策を行ったうえでの利用者受け入れと事業実施により、昨年度に比べ利用者、事業参加者とも大幅な増となった。

職員の状況

施設名	区分	3年度	2年度	増減
青少年協会	常勤役員	1	1	0
青少年センター	協会常勤職員	8	8	0
	契約職員	6	5	1
	計	15	14	1
愛宕山こどもの国・少年自然の家	協会常勤職員	6	8	△2
	契約職員	4	3	1
	計	10	11	0
八ヶ岳少年自然の家	協会常勤職員	7	7	0
	契約職員	3	3	0
	計	10	10	0
合計	常勤役員	1	1	0
	協会常勤職員	21	23	△2
	契約職員	13	11	2
	計	35	35	0

事業実施状況

I 法人会計 協会の運営

- 1 理事会等の運営、理事会、評議員会等の諸会議を開催し事業を推進した。
- 2 本協会が実施する事業推進のため、集中経理によるコスト節減や自主財源の確保に努めた。

理事会議決事項

回数	開催年月日	議決事項
第1回	令和3年 4月 25日 (決議の省略)	1 令和3年度第1回評議員会開催の件 2 規定の改正の件
第2回	令和3年 5月 26日	1 令和2年度事業報告の件 2 令和2年度収支決算の件 3 令和3年度定時評議員会開催の件
第3回	令和3年 6月 18日 (決議の省略)	1 代表理事選任の件 2 専務理事選任の件
第4回	令和3年 12月 17日 (決議の省略)	1 令和3年度第3回評議員会開催の件
第5回	令和4年 1月 28日 (決議の省略)	1 令和3年度第4回評議員会開催の件
第6回	令和4年 3月 10日	1 特定費用準備資金計画変更の件 2 令和4年度事業計画の件 3 令和4年度収支計画の件 4 令和3年度第5回評議員会開催の件 5 食堂光熱水費減免の件

評議員会議決事項

回数	開催年月日	議決事項
第1回	令和3年 5月 1日 (決議の省略)	1 理事補充選任の件 2 評議員の補充選任の件
定時	令和3年 6月 18日 (決議の省略)	1 令和2年度収支決算の件 2 評議員の補充選任の件 3 理事選任の件
第3回	令和3年 12月 24日 (決議の省略)	1 理事選任の件
第4回	令和4年 2月 4日 (決議の省略)	1 評議員の補充選任の件
第5回	令和4年 3月 23日	1 特定費用準備資金計画変更の件 2 令和4年度事業計画の件 3 令和4年度収支計画の件 4 理事選任の件

Ⅱ 公益目的事業会計 施設管理運営

施設利用状況

施設名	3年度 (人)	2年度 (人)	前年対比
青少年センター	111,647	99,196	12,451 (12.6%)
愛宕山こどもの国	143,756	114,958	28,798 (25.1%)
愛宕山少年自然の家	3,333	2,470	863 (34.9%)
八ヶ岳少年自然の家	15,328	14,621	707 (4.8%)
合計	274,064	231,245	42,819 (18.5%)

主催事業及び自主事業集計表

施設名	3年度 (人)	2年度 (人)	増減
	実施事業数(予定)	実施事業数(予定)	事業数(件)
	参加者数(人)	参加者数(人)	参加者数(人)
青少年センター	25(29)	22 (33)	3 (13.6%)
	999	654	345 (52.8%)
愛宕山こどもの国	18(17)	11(15)	7 (63.6%)
	15,154	1,358	13,796 (1015.9%)
愛宕山少年自然の家	10(11)	11(12)	△1 (△9.1%)
	405	308	97 (31.5%)
八ヶ岳少年自然の家	16(22)	9(26)	7(△4) (77.7%)
	1,899	1,461	438 (30.0%)
合計	69(79)	53 (86)	16(△7) (22.0%)
	18,457	3,781	14,676 (388.2%)

1 県立青少年センター管理運営事業

青少年センターの設置目的である「青少年に活動、研修、交流の場を提供することにより、豊かな感性と創造性を育み、心身ともに健全な青少年育成を図ること」を達成するために、利用者にとって快適な利用環境を常に保てるような施設管理・運営を行うと同時に、「各種のスポーツ教室事業」、「様々な体験活動を行える事業」、「相談支援事業」を提供して、健全な青少年の育成を図った。

また、新型コロナウイルス感染予防のための施設整備やガイドラインを随時更新し、利用者が安心・安全かつ快適に施設を利用できるよう努めたことにより、昨年度より利用者数が増加した。

施設利用者 111,647 人(前年度 99,196 人)

(1) 快適な利用環境を整備し、利用者サービスを向上

安全で快適な活動、研修、交流の場を提供するため、毎日の巡回点検を基本に、週1回の環境整備、休館日を利用しての一斉点検・整備、専門業者によるメンテナンスを実施した。

(2) 積極的な広報活動

近隣の小中学校に各種イベント情報のチラシを送付するとともに、広報検討会を毎月開催し、従来から活用しているホームページの更新やツイッターなどの SNS の登録者を増やし、身近な情報発信に努めた。

(3) 主催・自主事業の充実

現代的課題でもある、青少年のさまざまな悩みに対する相談支援や、地域の小学生の放課後学習や、県内全域で行っている「青少年育成山梨県民会議」事業等、青少年の健全育成を図るための事業を新型コロナウイルス感染予防の徹底を図り実施した。

青少年センター主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
フライングディスクをやってみよう	本格的なフライングディスク競技の体験をとおして、学校以外の仲間づくりや活動の中で親子の触れ合いの場を提供することにより余暇の充実を図った。	6月 1回	26
地域交流事業	地域住民が楽しめる多彩なイベントを開催し、地域と青少年センターの連携を強化するとともに、住民同士の交流活動を促進することで防犯・防災や子育てに関するネットワークを形成し、安全・安心に暮らせる地域の醸成を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。	中止 通年	
居場所づくり	本館2階のスペースを活用し、誰もが安心して交流できる「居場所スペース」を提供する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため利用不可とした。	中止 通年 随時	
施設利用促進事業	幅広い層への広報活動を展開していくことで、新規利用者の確保と定着を図るとともに、協会各施設と連携した活動をさらに強化し、幅広い青少年の健全育成を図った。	通年 随時	
青少年センターボランティア推進事業	各種事業におけるボランティアの方々の活動支援及びボランティア活動に関する案内を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ボランティアを必要とする事業の一部が中止となったため活動が縮小した。	通年 随時	8
コンサルテーション・ビューロー事業	ニート、ひきこもりを含む若者無業者を中心に、様々な悩みを聞き、解消するための支援を行うとともに、必要に応じて専門機関等への橋渡しを行った。	通年	292

レクリエーションインストラクター養成講座	地域や職場で社会活動や奉仕活動を行うにあたり、レクリエーションインストラクターとして実践していくための知識や技術を学んだ。	7月～2月 全9回	24
運動塾～かけっこ～	子どもやその保護者が、各スポーツの専門の指導者から学ぶことで、運動する楽しさやそのスポーツの魅力を知る機会とし、継続的な運動習慣の定着を目指した。親子でのかけっこ教室では、かけっこにおける脚の上げ方、腕の振り方などを学んだ。	5月 10月 2回	78
おやこで着衣泳～水難事故から身を守る～	「着衣水泳」を体験し、水難事故から身を守る術を身につけてもらう機会とした。	7月 1回	31
水鉄砲フェスティバル～作って遊ぼう！～	水鉄砲づくりを通して、ものづくりの楽しさを味わい、技巧性を高めた。また、水鉄砲あそびを通して、健全性や公平性を学んだ。	7月 1回	10
運動塾～タグラグビー～	子どもやその保護者が、各スポーツの専門の指導者から学ぶことで、運動する楽しさやそのスポーツの魅力を知る機会とし、継続的な運動習慣の定着を目指し、タグラグビーを通じて、互いを尊重し、チームスポーツの楽しさを学ぶ予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。	中止 9月 1回	
青少年センター50周年記念事業「センターまつり」	各種体験コーナー、発表会、出店等による(文化)祭を実施し、地域に根差した施設を目指すと同時に文化・情報の発信地としての機能をセンターが担い、参加者に楽しい一日を提供することを目的に10月に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため3月に延長した。しかし3月も状況を鑑み中止とした。	中止 10月 3月(延期) 1回	
運動塾～器械体操～	子どもやその保護者が、各スポーツの専門の指導者から学ぶことで、運動する楽しさやそのスポーツの魅力を知る機会とし、継続的な運動習慣の定着を目指した。親子での器械運動では、回転や倒立、鉄棒運動などの基礎的な動作を学んだ。	12月 1回	24
青少年・青少年育成 功労者等表彰事業	青少年健全育成の一層の促進を図るため、善行青少年及び青少年健全育成功労者等を表彰した。	随時	8
白ポスト事業	青少年にとって有害な図書等の回収のため、JR 駅等に設置した白ポストの維持管理を行った。	通年 随時	

青少年センター自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
備品貸し出しサービス	スポーツ用具を持参しない利用者に、有料で用具を貸し出し、その収入を必要備品のメンテナンスと更新(購入)に充てることで、備品の状態・数量を常に良好に保ち、利用者の利便を図った。	通年 随時	
利用者支援サービス	本館、リバーズ和戸館の利用者へコピーの対応をし、利用者に対する利便性の向上を図った。	通年 随時	

学習スペース提供事業	自宅に学習環境の確保が困難な中学生・高校生に自主学習の場を提供した。	通年 随時	38
甲運小学校区放課後子供教室	甲運小学校を会場として、青少年協会職員と甲府市教育委員会の指導のもと、小学生の放課後の居場所や各種体験・学習の場とした。 (青少年協会、甲府市教育委員会連携事業)	7月～3月 全6回	185
グラウンド・ゴルフ大会	グラウンド・ゴルフの愛好者に活動の場を提供するとともに、参加者同士の親睦を深め、仲間づくりを進め、グラウンド・ゴルフの普及振興を図り、健康づくりに寄与することを目的に実施した。	1回目:6月実施 2回目:11月実施	85

青少年センター自主事業実施状況(青少年育成山梨県民会議事業)

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
「あいさつ・声かけ運動」市町村民会議等普及事業	「あいさつ・声かけ運動」を全県的に展開するため、各市町村への働きかけを行った。街頭キャンペーンを行い、「あいさつ・声かけ運動」を推進する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。	通年 随時	
中高生のネット・ワークショップ	青少年同士が「インターネット利用の問題」や「安心・安全なネット社会」等をテーマに意見交換や討論を行うことで、インターネットの適切な使い方について理解を深めることを目的に実施した。また、インターネットに係るリーフレットを県内の中学生に配布し、広く啓発を図った。	12月 1回	26
「家庭の日」「青少年を育む日」推進運動事業	「大人が変われば子どもも変わる」をテーマに、大人自身の姿勢や大人社会のあり方を省みるきっかけとなるような啓発事業を行った。また、「家庭の日」「青少年を育む日」をテーマとした啓発ポスターを募集し、カレンダーを作成した。	通年 随時	64
青少年関係 NPO 法人等ネットワーク事業	関係諸団体をつなぐ「ツール」として、メーリングリストを活用し、青少年育成関係団体等における情報の共有化を図るとともに、各青少年団体から寄せられた情報等を広く県民に発信した。	通年 随時	
子ども・若者支援フォーラム「繋がろう！山梨のおとなたち 話そう！子どもの明るい未来を」	「繋がろう！山梨のおとなたち 話そう！子どもの明るい未来を」TSU・NA・GU～家庭・学校・地域・行政の連携で希望ある未来をつくろう～をメインテーマに「子ども・若者支援フォーラム」を新型コロナウイルス感染拡大防止のため、動画配信にて実施した。	1月 1回	80
管理運営(3事業)	県民会議事務局の運営及び事業の円滑な実施を図るため、ホームページによる情報提供や広報車の管理等を行った。	通年 随時	
少年の主張山梨県大会	県内の中学生に、広い視野と柔軟な発想や創造性を育むきっかけとするとともに、物事を理論的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力を身につける機会とした。 また、「少年の主張山梨県大会」において、「全国大会」へ推薦する山梨県代表者を決定した。	8月 県大会 11月 全国大会	20

2 県立愛宕山こどもの国・少年自然の家管理運営事業

甲府駅からも近く、子どもたちがのびのびと遊べる安全で楽しい遊び場の確保に努めるとともに、緑豊かな里山の自然の良さを感じながら、施設を利用するすべての方が快適に利用できるための環境づくりに努めた。

また、こどもの国園内にある少年自然の家では、コロナ禍の中、できる範囲ではあるが家庭や学校生活を離れた自然体験活動の支援と普及に努めた。

こどもの国 施設利用者 143,756 人(前年度 114,958 人)

少年自然の家 施設利用者 3,333 人(前年度 2,470 人)

運営方針及び具体的な管理運営

(1)利用者が安心して、快適に利用するための環境整備と施設管理

毎日行う、朝、夕の定時巡回では、危険箇所の早期発見に努め、危険箇所が見つければ、職員が対応するものと専門業者に依頼して対応するものとに区分して、迅速な施設保守を行い、遊歩道沿いの倒木撤去や植物の保護に努めることで、人が入ることができる里山の環境整備を行った。

また、活動プログラムを行うエリアの実施前点検と活動中の巡回を徹底することで、安心安全な施設運営に努めるとともに、新規プログラムの開発を進めることで利用満足度の増加を図った。

さらに、多くの人出が予想される休日やイベント開催時には、利用者が安全に活動できるように職員を適正に配置するとともに、アルバイトを配置することで安全に配慮した運営を行った。

(2)地域の団体やボランティアとの連携協働

県内の大学に通う学生ボランティアには、子ども対象事業の補助スタッフとして、子ども達の見守りと体験活動のサポートをしていただき、地元の奉仕団体には、園内の落ち葉やごみ拾いなどの環境整備作業にご協力いただくなど、地域やボランティアとの協働を図った。

(3)積極的な広報活動

各種のイベントを開催するにあたっては、県内の保育所や小学校などの参加対象年齢に合わせてイベント募集チラシを送付するとともに、ホームページやSNSを活用した広報活動を行った。

また、宿泊室の空き状況など、日々変化する情報についてもホームページを使って随時、情報を発信した。

(4)主催事業の充実

豊かな自然環境を生かした体験活動や施設の特色を生かした野外活動を通じて、青少年の健全育成を図るとともに、幼児とその保護者を対象とした子育て応援事業や世代間交流を図る事業などを実施することで、子どもの成長に応じた切れ目のない支援に重点を置いて各種事業を企画し、実施した。

愛宕山こどもの国主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
自然保育サポート事業	こどもの国の豊かな自然環境を活かし、五感を使って身近な自然を感じ、味わい、その美しさや不思議さに気づく機会を提供することで、社会生活を送るうえで大切な「生きる力」である生命の尊重、健康な心と体、自立心、豊かな感性と表現など大切な資質を育むとともに、幼児期の自然体験活動の支援を行った。	5月～11月、 1月、2月 20回	697

愛宕山こどもフェスティバル	ゴールデンウィークに様々な工作や遊びなどの体験を提供し、子どもたちの健全育成を推進する機会とした。飛沫感染防止のため、「飲食ブース」の出店を自粛し、例年より若干規模を縮小して開催した。	5月 3回	9,466
親子で出発！わくわく里山たんけん (子育て応援事業)	親子で五感を使ってその季節ならではの自然を感じ、新しい発見をする機会とした。親子で楽しむことができるネイチャーゲームや木の実を使ったクラフトなど、その季節の自然を感じながら、家族間で交流する機会を提供した。	5月、10月 4回	121
わたしにご褒美！里山でリフレッシュ！！	子育て中の親が、里山の中で体を動かし、リラクゼーション効果を得ることで心身ともにリフレッシュする機会を提供した。5月は「ヨガ」、6月は「クラフト」を行なった。臨時託児所を開設して実施した。	5月、6月 2回	30
家族で楽しむDIY (子育て応援事業)	家族で協力し、ヴィンテージ・ウッドボックス(木製の手提げ箱)を製作する活動を通して、各々が家族に貢献することの喜びを感じることでできる機会を提供した。	6月 1回	27
家族でキャンプデビュー～自然は最高の調味料～	家族が気軽に行うキャンプ体験を通して、家族の絆を深めてもらうとともに、野外活動へ興味を持つ機会として、ミニスウェディッシュトーチ作製とメスティンを使った調理体験を提供した。	7月 1回	34
家族で作ろう！うちの味 ～手前みそに挑戦～	食育の一環として、家族で「みそづくり」を体験し、子どもが食べ物に興味を持つきっかけづくりとして、みそを使った郷土食「ほうとう」を作って食べることで、郷土の産物や食文化の歴史に触れる機会を提供した。	1月 1回	28
幼児向け自然体験活動指導者研修会	幼児教育に携わる指導者に自然体験活動を実践してもらいつつ、その役割や効果、安全管理の考え方等を学ぶ機会を提供した。 8月は参加予定者が18名あったが、新型コロナウイルス感染症のまん延防止に伴う臨時休園により、実施を見合わせた。	8月 中止 10月 実施 1回	18
愛宕山ボランティアバンク	ボランティアバンク登録団体を中心に、こどもの園周辺や園内の清掃奉仕活動を行った。また、社会人や学生の登録者は主に主催事業の指導補助を行った。	4月、5月、7月、 9月、10月、 11月、12月 14回	138

<p>あたごやまイベントフィールド 365</p>	<p>芝生広場や自然の家周辺を中心にイベントを実施し、季節を感じられるクラフトや遊びを提供し、感動体験を提供した。</p> <p>① こいのぼりをつくろう！ 来園者に折り紙で「コイ」を折ってもらい、表面に将来の夢などを記入してもらった。自由広場の「水のタワー」の側面に展示し、こどもの日のフォトスポットとした。</p> <p>② 落葉焚きで焼き芋 芝生広場で、落ち葉焚を行い焼き芋をつくった。定員を大幅に超える申し込みがあったため、実施回数を1回増やし、多くの方に参加していただいた。</p> <p>③ 初日の出を見よう！ 自然の家の屋上を会場として実施した。</p> <p>④ 昔遊びを体験しよう 自然の家屋上でけん玉やコマ回し、輪投げ体験の場を提供した。</p> <p>⑤ フィールドラリー 改修工事直前のこどもの国遊具周辺を利用したフィールドラリーに参加していただき、家族の思い出づくりの機会とした。</p>	<p>4月、5月 5回</p> <p>11月 2回</p> <p>1月 1回</p> <p>1月～3月 22回</p> <p>4月～7月 5回</p>	<p>1,465</p>
<p>ウォーターチャレンジ！ あたごやま</p>	<p>来園者に楽しんでもらうため、なざまざまな水を使った遊びを提供した。通常自由広場で実施している幼児用手漕ぎボートは改修工事開始後は、自然の家屋上のゲーム水路にて実施し多くの方に体験していただいた。8月に実施を予定していた「ザリガニ釣りに挑戦しよう」(参加予定者40名)と「魚のつかみどりに挑戦しよう！」(参加予定者39名)は、新型コロナウイルス感染症のまん延防止に伴う臨時休園により実施を見合わせた。</p>	<p>5月～3月 82回</p>	<p>2,655</p>
<p>広報事業</p>	<p>こどもの国で実施するイベントのチラシや施設案内、事業一覧を作成し、広域的に情報を発信した。7月にはこどもの国リニューアル工事について地元新聞に全面広告を掲載した。</p>	<p>4月～3月</p>	<p style="text-align: center;">/</p>

愛宕山こどもの国自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
<p>ミニセグウェイ活用事業</p>	<p>リニューアル工事期間における利用者増につなげる取り組みの一つとして新しい電動アイテムであるミニセグウェイの体験乗車を行い、来園者に楽しんでいただいた。</p>	<p>10月～3月 22回</p>	<p>290</p>
<p>里山活用事業</p>	<p>愛宕山の森林を若返らせるとともに、持続可能な開発目標(SDGs)として里山の保全管理を行った。また、里山の自然と共生する人々の暮らしや豊かな生物多様性を育む取り組みとして、ミツバチの飼育に着手した。</p>	<p>10月～3月</p>	<p style="text-align: center;">/</p>

園内整備事業	こどもの国駐車場歩道脇の落石防止柵や変形自転車広場へ向かう遊歩道沿いのフェンスの改修、変形自転車広場へ向かうトンネル内の照明改修整備など、県が実施しているリニューアル工事と並行した整備事業を実施した。	7月～3月	
里山再生事業	園内の遊歩道を中心に、立ち枯れた樹木を伐採するなど、里山の再生を目的とした森林管理を行い、伐採した枝等は野外炊事用の薪として活用した。	4月～3月	
移動販売出店事業	こどもの国をより魅力あるにぎわい空間とするため、利用者の利便性や快適性を高めるサービスとして移動販売車による飲食店の出店を初日の出事業の際に実施した。	1月 1回	
甲運小学校区放課後子供教室	甲運小学校を会場として、青少年協会職員と甲府市教育委員会の指導のもと、小学生の放課後の居場所や各種体験・学習の場とした。 (青少年協会、甲府市教育委員会連携事業)	7月～3月 全6回	185

愛宕山少年自然の家主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
あたごやま自然観察会 (春・夏・秋・冬)	四季折々の自然を観察した。 ＜春＞水路にいるオタマジャクシを間近で観察したり、野草や花を観察した。 ＜夏＞夕方にキャンプ場周辺の自然観察をし、夜にはセミの羽化を観察し、宿泊事業として実施した。 ＜秋＞日中と夜にそれぞれ自然観察を行い、昼と夜に活動する生き物の違いを学んだ。 ＜冬＞77名の応募があったが、新型コロナウイルス感染拡大防止への臨時特別協力要請のため実施を見合わせた。youtube に冬ごもりをする生物を探す動画をアップロードし、昆虫の冬眠の様子や木の実の中身の観察を行なった。	4月 7月 (1泊2日) 9月 全3回 中止 2月 1回	85
森っこ集まれ！ ネイチャーDAY	小学校3、4年生を対象とした事業で、親元を離れ、普段とは違う友達との集団活動の中で、自主性や協調性を育み、社会性を身につけることを目的とし、「仲間づくりゲーム」や「ネイチャーゲーム」、「虹色万華鏡づくり」を行った。	11月 1回	17
ほっこりふわふわCA RINOデイ (子育て応援事業)	低年齢期の子ども達に保幼小接続期の「遊び」から「学びへ向かう姿勢」を育む機会を提供する。35名の応募があったが、新型コロナウイルス感染症のまん延防止に伴う臨時休所により実施を見合わせた。	中止 9月 1回	

森の中の1デイキャンプ	親元を離れておこなう様々な自然体験活動を通し、班単位での活動を通して集団行動の大切さを学び、「学びに向かう力」を育む機会を提供した。	5月、11月 2回	58
つる 蔓取物語 ～里山を守ってリースをつくろう～ (里山再生事業)	愛宕山の整備として、採取したツルを利用して、木の実などを飾りつけたリースを作成した。森林の光環境等を改善させ、持続的な恵の獲得に繋がっていくという里山の循環の仕組みを学ぶ機会を提供した。	12月 1回	30
つくってみるじゃん正月飾り～世代を超えて伝えたい～(異世代交流事業)	護国神社・甲府遺族会の協力を得て、正月飾りを家族で協力して作成した。伝統や風習を知るとともに、様々な世代の人々の交流を深める機会を提供した。	12月 1回	23
インターンシップ受入事業	教育事業や研修支援などの業務を体験することで、早い段階から将来への明確な目標を構築する支援として、山梨県立大学と山梨学院大学の学生5名を受け入れた。8月は3名の受け入れを予定していたが、新型コロナウイルス感染症のまん延防止に伴う臨時休園により、実施を9月に延期した。	9月、10月 4回 12日間	5
広報事業	施設利用者の増加を図るため、自然の家イベントチラシや宿泊利用、施設案内を広報した。	4月～3月	

愛宕山少年自然の家自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
あたごやま親子陶芸教室	陶芸初心者の親子や一般の方を対象に、基本的な陶芸の知識や技術を身につけながら、作る楽しさや喜びを感じてもらった。3回目は2月に実施予定で260名の応募があったが、新型コロナウイルス感染拡大防止への臨時特別協力要請のため実施を見合わせた。	11月、1月 2回 中止 3月 1回	127
自然の家ファミリーウィーク ～家族で泊まって自然体験～	少年自然の家に家族で宿泊し、自然の家での活動プログラムを体験することで、自然の家への理解を深めるとともに親子の絆を感じてもらう機会とした。夜間プログラムでは「ナイトハイク」や「館内クイズラリー」を実施した。	7月 (1泊2日) 9月 (1泊2日 ～2泊3日)	60
利用者支援事業(クラフト)	自然の家を利用する団体にクラフトづくりなどの活動プログラムの体験してもらった。	4月～3月	

3 県立八ヶ岳少年自然の家管理運営事業

八ヶ岳少年自然の家では、集団生活の中で自主的・自発的に行動する能力を身につけ、自律・協同・友愛・奉仕の精神を養うことを目的とした「少年団体の活動の場」として、感染症対策を含め利用者も指導者も安心して安全な活動ができる支援を業務目標の中心として施設運営を行った。

施設利用者 15,328 人（前年度 14,621 人）

(1) 利用者の安心・安全の確保

- ① 職員による毎日の巡回業務および月一回の施設点検により、利用者が安心・安全に活動できる環境づくりに努めた。
- ② 感染症対策として、利用者が安心して施設を利用できるよう、感染拡大防止ガイドラインに基づいた施設運営に努めた。

(2) 広報活動の充実強化

- ① 昨年同様に近隣の類似施設の閉鎖の影響を踏まえ、関係市町村に案内を発送した。（羽村市、八王子市、武蔵野市、日野市）
- ② 利用者に必要な情報を分かりやすくホームページに掲載し、定期的に更新を行った。
また、Twitter や Facebook などの SNS を活用し、当自然の家における事業について広く周知を図った。

(3) 主催事業の充実

施設の設置目的を重視し、自然環境に恵まれた施設の特性を活かした中で、主催・自主事業を年間22事業実施する予定であったが、まん延防止措置の期間中に予定していた事業および10月以降の改修工事のため活動場所の確保が困難になった事業もあり、実施を見合わせ、感染拡大予防ガイドラインに沿って感染状況を見極めつつ16事業を実施した。

八ヶ岳少年自然の家主催事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
八ヶ岳利用者研修会	利用予定団体の引率者を対象に、利用時の野外活動の意義と活動プログラム作成や指導に必要な知識や技術を具体的に体験してもらう研修会を実施した。	4月、5月 全2回	72
八ヶ岳星空観望会・ライブ中継	光害の影響が少ない八ヶ岳において、家族で星を見つけ、果てしない宇宙を題材に会話を楽しみ、自然現象に関する知識を学び、天文について関心を高める機会とした。新型コロナウイルス感染症対策として、インターネットでのライブ中継のみ実施となった回もあった。	5月、10月、 12月、2月 4回 (4月、8月は天候不良により中止)	43 (配信視聴 5,925回: 3/31時点)
八ヶ岳少年自然の家の思い出を描く作品展	雄大な八ヶ岳高原の大自然の中で活動した思い出を子どもたちが自由に絵画で表現することにより、自然の家や自然環境への興味・関心を一層高めることができた。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、表彰式は中止とした。	募集:5月7日～ 11月12日 審査会:12月1日 表彰式:1月30日 (表彰式のみ中止)	1,254
八ヶ岳フレンドリーキャンプ	県内の不登校児適応指導教室に通所する児童・生徒を対象に、自然体験活動の場を提供し、自主性を促す機会となり、仲間との交流を深めた。	7月 1回	22
ファーストステップキャンプ～意外と簡単？家族でキャンプデビュー～	テント設営の仕方や野外炊事をとおしてキャンプの知識を身に着けるとともに、家族で協力してキャンプ生活を送ることで絆を深めた。	7月 1回 (1泊2日)	35

地域環境美化事業	地域住民(朝日ヶ丘班)と連携し、自然の家の玄関口である「牧場通り」の除草作業や花壇の花植えを行い、地域住民との関係を深めるとともに、周辺環境の美化に努めた。	7月 1回	70
もりであそぼう日帰りバンビキャンプ	幼児とその保護者を対象に、それぞれ別々の活動と一緒に活動をとおして親子の関わりを見つめ直す機会とした。	10月 1回	18
ランランキャンプ	家族単位でのテント泊や火起こし体験、謎解きハイクなど、自然の中での活動をとおして、コロナ禍での楽しみを見出す機会とした。	10月 2回 (1泊2日)	60
八ヶ岳ネイチャーマスターへの道	「地学」「植物」「星空」「野鳥」の自然科学分野のテーマを設け、専門性を持った職員または外部講師の指導のもとで、実験や観察、工作などの体験型学習を実施し、自然への興味・関心を深めた。	10月、11月、 12月 4回	51
秋の実りを楽しもう	家族での収穫体験やクラフト体験を通して、自然や食に興味を持ち、家族の絆を深めてもらう機会とした。	10月 1回	35
星と焚火のデイキャンプ	焚き火の仕方や星空観察のヒントを学び、実践することにより、今後の焚き火と星空観察に活かす機会とした。	11月	33
利用者との意見交換会	利用団体からの代表者に、利用者アンケートとは別に「当施設をお使いいただける理由」や「自然の家に求めること」といったテーマで意見交換する機会を書面で設け、今後の自然の家のあり方などについての様々な意見をいただいた。	1月～3月 1回	14
KIYOSATO ボランティア隊	指導補助者や協力者として活躍の場を提供することで、参加者たちとのふれあいを通してボランティアの資質を高められた。	通年 1回	7
地域交流事業	地域住民と交流を図り、自然の家への理解と利用の促進を図る目的で、地域の皆様との交流を進める機会として予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。	中止 9月 1回	
家族でアップアップ大作戦～体力アップ！きずなもアップ！～	広大な敷地を利用した冒険ハイクを、家族向けにアレンジ開放し、コロナ禍でも家族で体を動かし、絆を深める機会とする予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。	中止 9月 1回	
地域連携事業「北杜市放課後子ども教室」	北杜市教育委員会と連携し、北杜市が実施している放課後子ども教室に職員を派遣し、レクリエーション指導と工作指導を行う予定であったが、北杜市教育委員会が放課後子ども教室自体を中止としたため実施がなかった。	中止 9月～2月 全6回	
清里の冬の遊び場	閑散期における利用率向上を図ることを目的に、家族で自然の家の活動プログラム等を利用してもらう予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止と、改修工事による活動場所の確保が困難であることから中止とした。	中止 12月～2月 8回程度	

八ヶ岳少年自然の家自主事業実施状況

(単位 人)

事業名	主な内容	実施時期・回数	参加者数
甲運小学校区放課後子供教室	甲運小学校を会場として、青少年協会職員と甲府市教育委員会の指導のもと、小学生の放課後の居場所や各種体験・学習の場とした。 (青少年協会、甲府市教育委員会連携事業)	7月～3月 全6回	185
施設活性化事業	地元の外部団体や、専門知識を有する地元の人材発掘や協同プロジェクトの実施をおし、施設の魅力や利用者のニーズに応えた。	8月 1回	
外部団体・講師紹介事業	青少年健全育成活動の分野において専門的知識及び経験を有する方々を登録し、青少年健全育成活動に取り組む各種団体に対して、講師等として紹介する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施に至らなかった。	中止 通年	
青少年教育施設連携交流事業	関連施設の実施する事業への職員を派遣し、当自然の家のブースを設け、利用促進のための広報活動とクラフト指導などを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施に至らなかった。	中止 通年	
利用者支援事業(クラフト)	施設利用者を対象に体験活動に要する資材を提供することで、利用者サービスの向上を図った。	4月～3月	

Ⅲ 収益事業会計 利用者支援サービス事業

サービスの向上と満足度を高めるため、安定した経営資源確保のため、外部団体との提携により魅力ある自主事業を定期的実施し、施設の利用率向上と収入確保を図った。

(単位 円)

事業名	主な内容	実施時期	経常収益
利用者支援サービス	自動販売機による飲料水の販売等を行った。	4月～3月	1,123,748
プラネタリウム番組配給事業	オリジナル番組を他館へ配給した。	4月～3月	347,708
外部団体提携事業	外部団体と提携し、専門インストラクタ指導による講座を実施し、県民サービスと利用の拡大を目指した。	4月～3月	362,180